

東日本大震災被災地応援実行委員会より

# 轍わだち

2011.9.10 NO24

## 苦渋の決断この半年

津浪被害が大きかった岩手・宮城・福島3県の沿岸部の市町村では5万人の人々が転居し、人口の減少が続いていると言う。家を、家族を失うだけでもその喪失感は計り知れない。その上故郷にも別れを告げなければならぬ人々がいる。栄えた漁港・小さな漁村の一つ一つに暮らしがあり、思い出があったのにと思うと頭が熱くなる。「もう漁師はできない」漁船が破壊され、「もう農業は無理」瓦礫に埋まった田畠を眼前に、人々は転職を迫られた。大人だけではない。2学期からの転校生たち。ちぎれんばかりに手をふって友と別れを。放射能での健康被害におびえ、外遊びを控えさせられる園児。「このまま生きていても…」と遺書を残して逝った人々。今も行方不明の方がいる。家族は「死亡届」を出す無念の決断を下す日々が続いている。

死者1万5780人、行方不明者4122人（9日現在）避難転居者8万2945人（8月25日現在）

物を貰おう  
S募金にご協力を

実行委員会

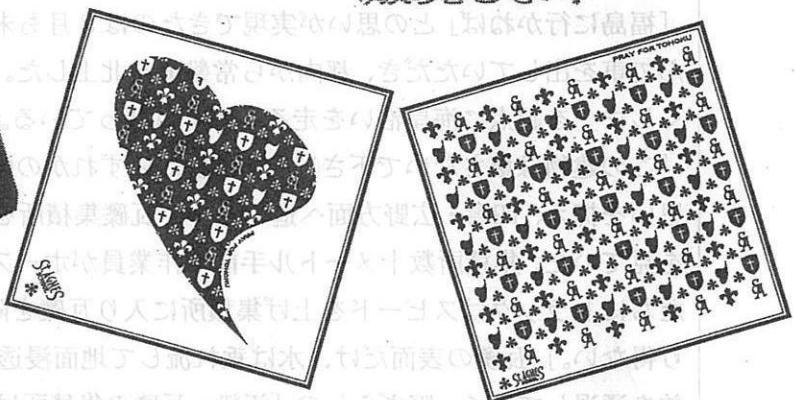
私たち立命館コース3年生は今夏ニュージーランドに研修に行ってきました。ホームステー先へのお土産に被災地応援タオルを全員が持つて行きました。応援の活動を紹介する英語文もつけました。ホストファミリーは「被災地のためにこのような活動をされていてとても感心した」とおっしゃって下さり、とてもタオルを気に入つて下さいました。

そして、中には20\$も寄附して下さつた方もいました。

新しく\$を集める募金箱を設置しようと考えました。

11月に修学旅行に行くAコースの2年生の人たち中学3年生の人たちにお願いします。

バンダナ・大判ハンカチ  
販売します



6種類あります。

色は赤・紺・白を基調とした色違います。

学院祭の模擬店・髪用バンダナでも活用してみてはいかがでしょう。

PRAY FOR TOHOKUの文字がさりげなくプリントされています。

# 今・被災地はま

「被災地支援にもなるから」と勧められ、夏休みに東北観光に出かけ、被災地気仙沼にも立ち寄りました。気仙沼の駅近くでレンタルした自転車で海辺の方に行きました。緩やかな坂道を降りて港近くに行くと突然、津浪で壊れている建物が見えました。見渡す限りすべての建物が壊されていました。5ヶ月が過ぎた8月でも、津浪で壊された建物の多くは撤去されず、そのままの状態でした。この惨状を見て、私は愕然とし、つらくなりました。早く、その場から離れたいという気持ちになりました。その一方で、初めて気仙沼に来た私がそんな気持ちになるくらいですから、長年気仙沼に住んでいる人たちは、なおさらつらく、悲しい気持ちになられたことだろうと思いました。その後西へ自転車を10分ほど走らせました。すると川があり、橋をわたりました。橋の上から川を見ると津浪で流されたボートが横たわっていました。橋向こうは建物の崩壊は見られませんが冠水したことでした。その地域では、頑張って働いている人の姿がありました。心が打たされました。

今回の気仙沼の訪問で、悲しみの中にあっても、それでも前を向いて過ごしている人々が大勢おられることが改めて知ることができました。また、私自身もしっかりしないといけないと思われました。また、ささやかでもそれの方々と共に歩める支援を継続していくことが大切だと改めて、思いました。

（吉野日記）人 8月 28日 青銀神鑑識　（吉野日記）人 8月 29日 吉野　チャプレン・奥 晋一郎

放射能報道には疑問だらけ…内部被曝の恐さは分かったが、何シーベルトならば人体への影響があるのかな  
いのか、その影響はいつ？どんなかたちで？次から次へと拡がる汚染報道に？？？・・疑問は膨れ上がる。  
「福島に行かねば」との思いが実現できたのは8月も末。週末は福島で僧をつとめる東京のE先生に頼み込んで車を出していただき、都内から常磐道を北上した。内部が完全に破壊した巨大水族館「アクアマリンふくしま」を起点に海岸沿いを走る。家々は残っている。人は住めない状態ではある。「解体を許可します。」「この建物は壊さないで下さい」各建物にいすれかの張り紙。どちらを選んでも辛いはず。込み上げてくる  
思いを抑え、四倉・広野方面へ進む途中に瓦礫集積所を見た。近くに車を止め暫くの間、トラックの出入りを見ていた。集積所数十メートル手前で作業員がホースで荷台の瓦礫に放水する。あっという間の放水、ただちにトラックはスピードを上げ集積所に入り瓦礫を降ろして再び出していく。「えっ？？？これは除染？あり得ない。」瓦礫の表面だけ、水は垂れ流して地面浸透、集積所は町中、…トラックはひっきりなしに私の前を通過して行く。野ざらしの「汚染」瓦礫の集積所は遠くまでフェンスで囲まれていた。複雑な気持ちを抱えながら、行き止まりでユーターンを、繰り返しながら、進む。道を確認するために車を降りた。村役場の有線放送がまるで暮らしの中に溶け込んでいるように流れてきた。「9時現在の測定値をお知らせいたします。～ミリシーベルトです。」ガーン。やりきれない「異常の正常」。段々と口数が減る。思考が空転し出している。道路標識「双葉」「浪江」—その時太く高い円筒の建物が3本見える。東電の火力発電所だった。そこからしばらく行くと物々しい警戒体制がひかれていた。「許可証ありますか」「ありません」  
「ここから先は立ち入り禁止」です。福島原発事故警戒区域。ズシンとその現実が体中に響き渡る。

今井 千和世

学院祭では、「東日本被災地応援実行委員会」展示場にお越し下さい！

私たち、クリスマス・イブに被災地に「○○の光」を届けるために手作りのキャンドルを作成しています。そのキャンドルにあなたの一文字メッセージを刻んで下さい。  
バンダナ・ハンカチもそこで販売しています。